476 神経芽細胞腫におけるI-131 MIBGシンチグラフィの意義

小田野幾雄，武田正之*，木村元政，酒井邦夫
（新潟大学　放射線科，泌尿器科*）

Stage ⅠおよびⅡ（2例），Stage Ⅳ（4例）の計6例の神経芽細胞腫に対してI-131 MIBG シンチをおこなった。I-131 MIBG を0.3～0.5 mCi 静注し24時間ないし48時間像を撮像した。Stage ⅠおよびⅡは 術後症例で尿中VMAは陰性，臨床的に再発をみとめずMIBGの有意な集積もみられなかった。Stage Ⅳ はいずれも尿中VMAは陽性で，胸腹部の原発巣の他に頭蓋骨・胸骨・骨盤・両大腿骨に集積をみとめ，CT，骨X-P，アンギオおよび剖検等により，骨転移を確認した。このうち右副腎原発の症例は手術により3.5cm∅の原発巣と3cm∅の腹腔内リンパ節転移にMIBGが集積したことを確認した。

I-131MIBGシンチは①尿中VMA陽性例のスクリーニング検査として有用である。②神経芽細胞腫の原発部位，大きさ，範囲及び転移の有無を知る上で有用である。③治療後の経過観察に有効である。

477 Neuronal crest tumorにおける^{131}I-MIBGイメージングの経験

城野和雄，中別府良昭，米倉隆治，宮路紀昭，田口正人，吉村 広，島袋国定，坂田博道，禧久豊嗣，岡田淳徳，中條政敬，篠原慎治（鹿大　放）

^{131}I-MIBGは褐色細胞腫や神経芽細胞腫といったカテコラミン産生腫瘍に集積し，その局在診断及び治療に対する有用性が報告されている。更に最近では甲状腺髄様癌やカルチノイド腫瘍にも集積したとする報告もある。今回われわれもneuronal crest tumorに対し^{131}I-MIBGイメージングを施行する機会を得たので報告する。

対象は褐色細胞腫2例，非機能性傍神経節腫1例，神経芽細胞腫3例，肺小細胞癌4例の計10例である。イメージングは甲状腺をKI末でブロック後，^{131}I-MIBG 10μCi/kgを静注，原則として24，48時間目にガンマカメラで行なった。その結果，褐色細胞腫2例，神経芽細胞腫3例，肺小細胞癌1例にて病変に一致した集積を認めた。その他の腫瘍には集積は認められなかった。今回のわれわれの結果でもカテコラミン産生腫瘍には全例^{131}I-MIBGの集積を認めたが，肺小細胞癌の1例にもその集積を示し，カテコラミン産生腫瘍以外のneuronal crest tumorに対する^{131}I-MIBGイメージングの更なる検討が必要と考えられた。

478 I-131 MIBG による腫瘍シンチグラフィの3症例

伊藤秀臣，羽渕洋子，山口晴二，才木康彦
日野　恵，池窪勝治（神戸中央市民　核）
山岡幸司，黒木茂一，筒井　孟，水江日出成
（同　小児），石原　隆，早稲田則雄（同　内）
郷司克己（兵庫県立こども病院　内）

I-131 MIBG シンチグラフィにより腫瘍へのRI 異常集積を認めた3例を経験したので，その成積に若干の考察を加えて報告する。

（症例1）13M.F．神経芽細胞腫：左上腹部原発腫瘍の胸部への浸潤病巣と眼窩部への遠隔転移巣が明瞭に描出された。胸腹部腫瘍への RI 摂取率（25時間）は3.74%，有効半減期は43時間であった。化学療法と放射線照射による治療後のI-131 MIBG スキャンでは腫瘍の縮小が描出され，RI の集積も低下した。

（症例2）9Y.F．褐色細胞腫：右副腎部に限局する異常 RI 集積を認めた。腫瘍の摘出術により治癒した。

（症例3）39Y.F．褐色細胞腫：右上腹部に大きなRI 集積像を認めた。手術により肝を圧排する巨大腫瘍を摘出した。以上I-131 MIBG シンチグラフィは神経芽細胞腫および褐色細胞腫の診断，病巣範囲の描出および治療後の経過観察に極めて有用であると思われる。またI-131 MIBG の神経芽細胞腫への摂取率が十分高い場合，I-131 MIBG 大量投与による治療の可能性が示唆された。

479 I-131-Metaiodobenzylguanidene (MIBG) シンチグラフィーを用いた腫瘍検索の臨床的意義

中島光太郎、石川演美、畠山六郎、
秋貞雅祥（筑波大　放）

Guanethidineの類似物質として副腎髄質に親和性のある、I-131-MIBGは、褐色細胞腫の局在診断に優れた薬剤として注目されている。

我々は今回、褐色細胞腫、神経芽細胞腫、が疑われた11例と甲状腺髄様癌1例に対して、I-131-MIBGシンチグラフィーを施行した。

その結果、褐色細胞腫を疑った8例のうち5例に腫瘍への集積が認められ、これらは、組織学的に確診された。この内の1例は、静注5日後の検査でさらに明らかな集積が認められた。集積のなかった3例のうち1例は副腎癌であり、他の2例は腫瘍が存在しないことが確認された。神経芽細胞腫の3例のうち、未治療の2例では、原発巣、転移巣の療法に集積が明らかで、寛解例では異常集積が認められなかった。甲状腺髄様癌の1例では病変部に一致して集積が見られた。

Presented by Medical*Online